

## 資料紹介

## 「立教探訪」撮影の裏側 杉本佳奈

昨年九月某日、校友会の企画「立教探訪」のために、渡辺憲司先生にご同行して旧江戸川乱歩邸の取材をさせていただきました。校友会企画委員として携わった者として、企画の背景や撮影の様子をご紹介します。

「立教探訪」は、ホームカミングデーの動画番組のひとつとして制作されました。二〇二〇年は新型コロナウイルス感染症への対応に迫られた一年となりましたが、校友会が毎年十月に池袋キャンパスで開催しているホームカミングデーも、その影響を受けて初めてオンライン配信という形で開催になったのです。キャンパスに帰るという醍醐味は失われてしまいました。実行委員会の会議ではこの状況をポジティブに捉え、キャンパス内で普段は入れない場所を紹介したり、立教生でも知らない秘密に迫るような番組を作ろうという方針が決まりました。近年新設された施設や、本館の時計塔の内部など様々な候補が挙げられた中から、

私が提案した乱歩邸が採用されました。ホームカミングデーの企画ということで、案内役は幅広い世代に人気の憲司先生に決まり、アシスタント役は僭越ながら私が務めることとなりました。

番組制作を担当したのは、テレビ番組の制作をしているTBSスパークル。テレビの散歩番組ながら、裏では事前に綿密な打ち合わせを重ねました。まずは、どんな点にスポットを当てるか定めるための、スタッフによるロケハン。その後、ディレクターと私の間でも、何度かZoomで打ち合わせをしました。アシスタント役が全くの素人ということも顧みず、無理にリアクションをしなくてもポイントを作れるよう、憲司先生が要素所で出すクイズに私が答えるという構成が決まり、台本が作成されました。なお、視聴者の視線に合わせるために回答を間違えるように、という演出上の指導があったため、私が下手な演技を披露し

ています……どうかご容赦ください。

いよいよ迎えたい撮影日は、朝の集合時点から「暑い」を連発してしまっほどの真夏日でした。まずは本館前でオープンニングの撮影。夏休

み中とはいえ、いつもならサークル活動などに来た学生の姿が見られるはずですが、コロナの影響で入校制限をしていました。それから、憲司先生のご提案で立教通りを歩くことに。先生の学生時代には老月という女の子しか入れない喫茶店があったり、リビエラ東京の場所には白雲閣という料亭があったりしたというエピソードに、改めて歴史と変化を感じました。近い将来、道幅を広げて無電柱化する整備計画も進んでいるとか、といった会話をしているうちに、乱歩邸に到着。

丹羽さんに導かれて玄関から母屋に入り、一階の洋間へ。真っ先に目に留まるのは正面にある乱歩愛用の机、そ



してそこに置かれた貼雑年譜……かと思いきや、憲司先生が気になったのは、机上に飾られたウイスキーの箱。丹羽さんによれば今まで中を確認したことはないとのことでしたが、何と特別に開けていただきました。果たして中身が入っていたのかどうか？ 気になる方は、ぜひ動画をご覧ください。

特別ゲストとしてお越しくださった平井憲太郎さんにインタビューをさせていただいた後は、土蔵内部に。貴重な資料が立ち並ぶ、最も興味深い場所……ではありますが、ただでさえ暑い蔵の中で撮影ライトを浴び、さらにコロナ対策でフェイスシールドをしている息苦しさもあったため、撮影は巻きで終了となりました。出てくるころに

は全員ヘトヘトで、憲司先生からは「こんな思いをするなら引き受けなきゃよかったなあ」なんていう愚痴も飛び出しましたが、昼食休憩を挟んで無事に復活。午後には自由学園明日館まで足を延ばし、館長の渡辺晋哉さんに館内をご案内いただきました。最後には、立教大学と自由学園の意外な繋がりも明らかになります。

おかげさまで、本番組はホームカミングデー当日、動画配信チャンネルの数ある番組の中で一番の視聴数を誇ったそう、第二弾を願う声もあるとか。現在もYouTubeで見ることができますので、「立教探訪」でぜひ検索してください。憲司先生が登場するのは番組後半ですが、立教学院展示館学術コーナーネーターの豊田雅幸さんが築地周辺をご案内する前半の「立教発祥のルーツを探る」も必見です。

最後になりましたが、本企画のためにご協力くださったみなさまに、この場を借りて御礼申し上げます。

(町田市民文学館学芸員)